

桜川市人口ビジョン（案）

桜川市

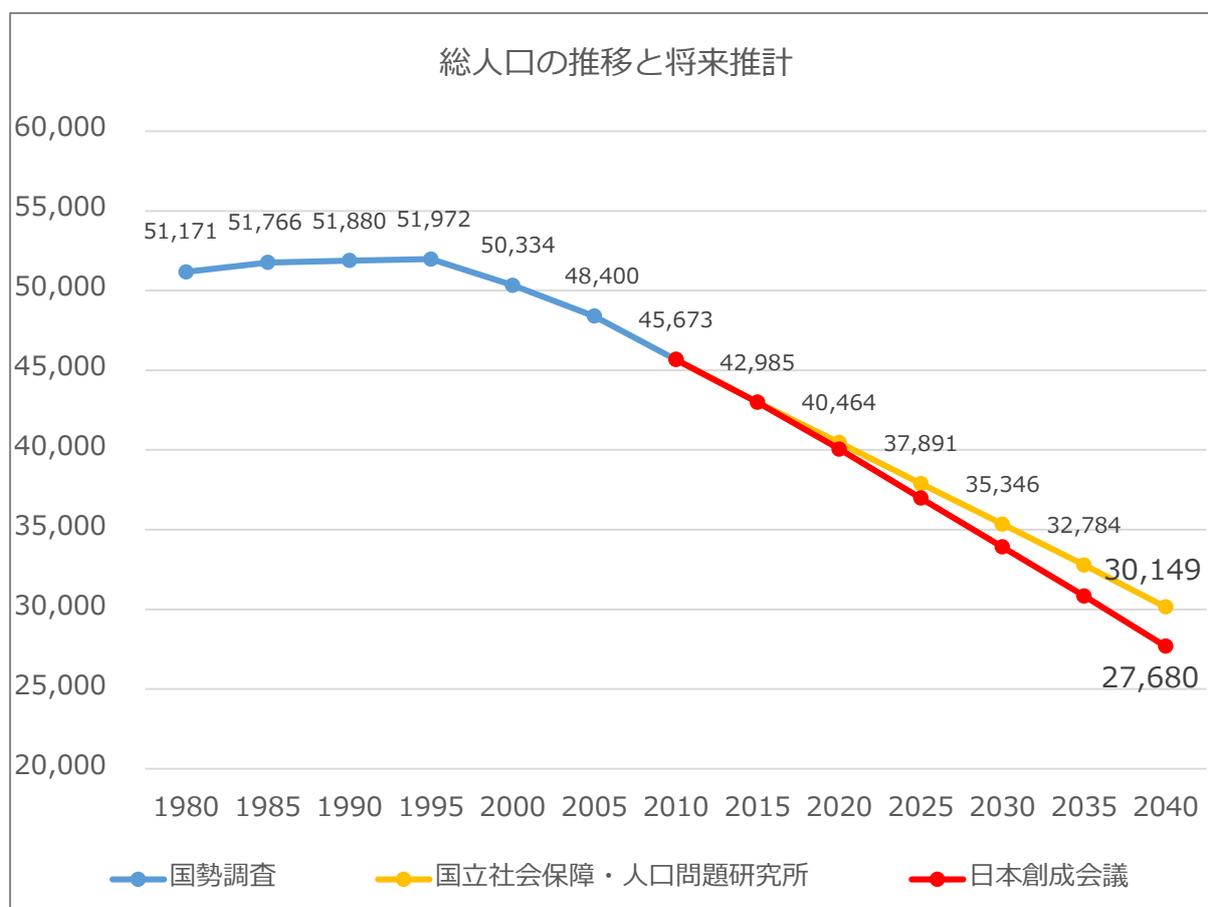
1.桜川市人口ビジョンの位置付け

当ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案し、本市における人口の分析を行い、将来展望を示すもので、当市の地域創生総合戦略立案の基礎とします。

2.人口動向分析

○ 総人口の推移と人口推計

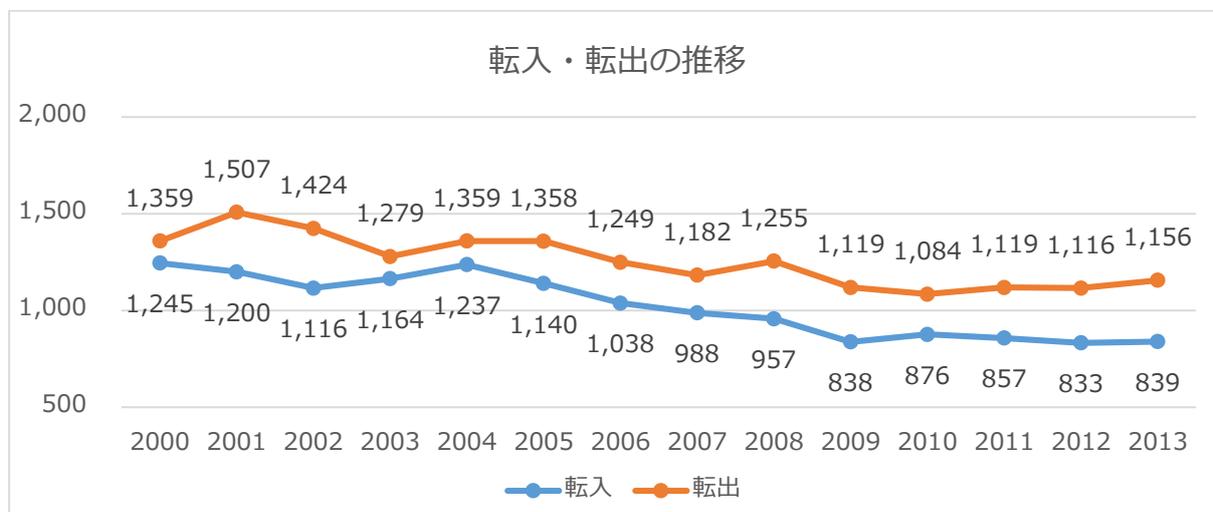
当市の2040年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」により、30,149人になるとされています。また、2014年5月に日本創成会議が発表した将来推計人口では、人口移動が収束しない場合、27,680人まで減少し、特に、若年女性（20～39歳）人口は、2010年の4,543人から、1,805人まで減少（変化率▲60.3%）するとされています。



※2010年までは国勢調査人口、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値を記載

○社会動態

■ 転入・転出の推移

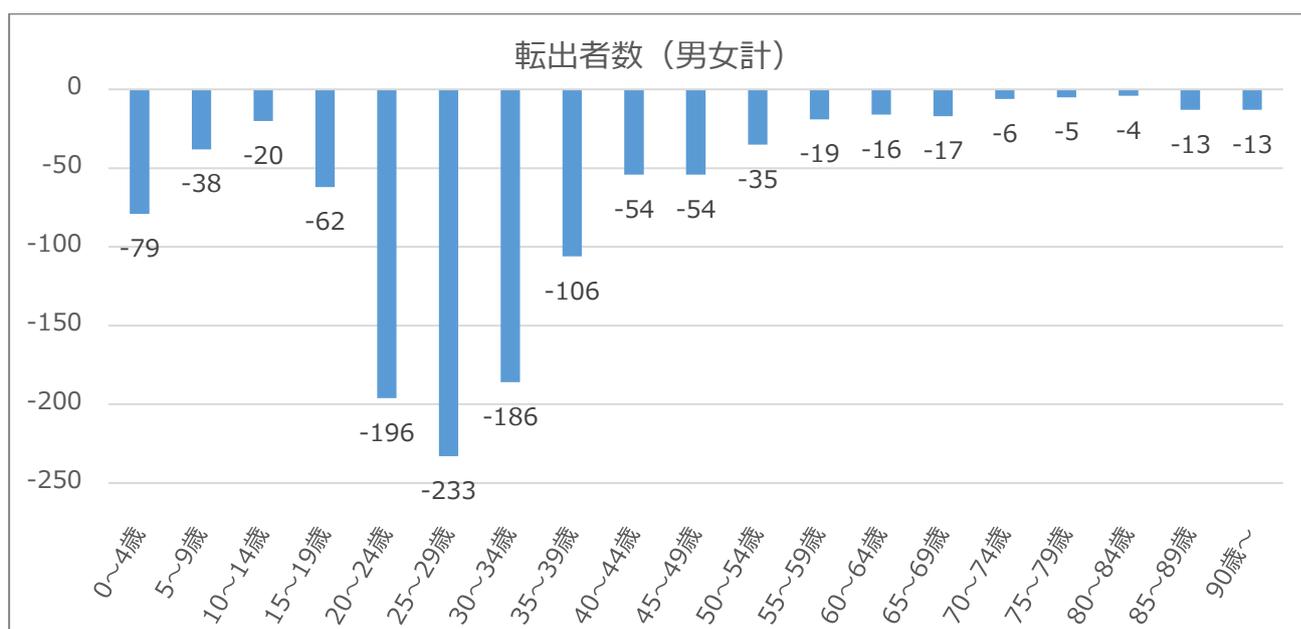


※常住人口調査より作成

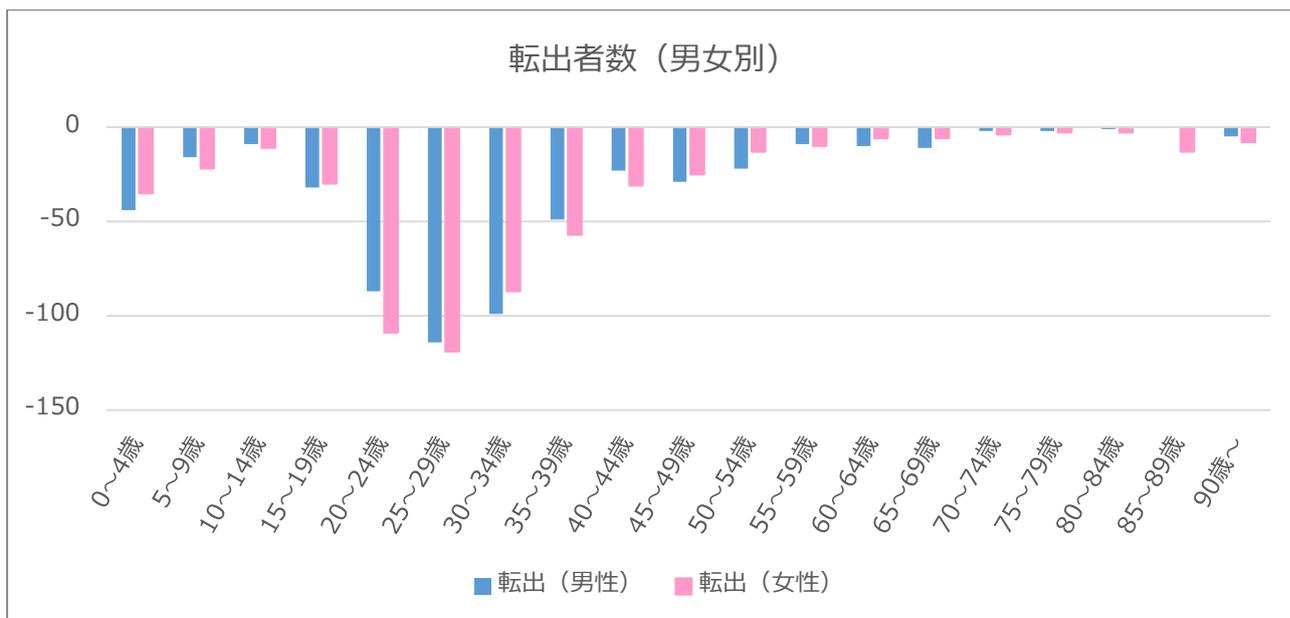
■ 年齢階級別転出状況

年齢別の転出者数を見ると、20歳から34歳ごろに転出する傾向が強く、進学、就職、結婚などが主な理由となっています。

また、男女別にみると20歳代の女性の転出が目立ち、一般的に結婚や出産などが多い年齢層であることを考えると、この年齢層の転出が本市の出生数の減少につながっていると考えられます。



※常住人口調査（基準日 2013年1月1日～12月31日）より作成



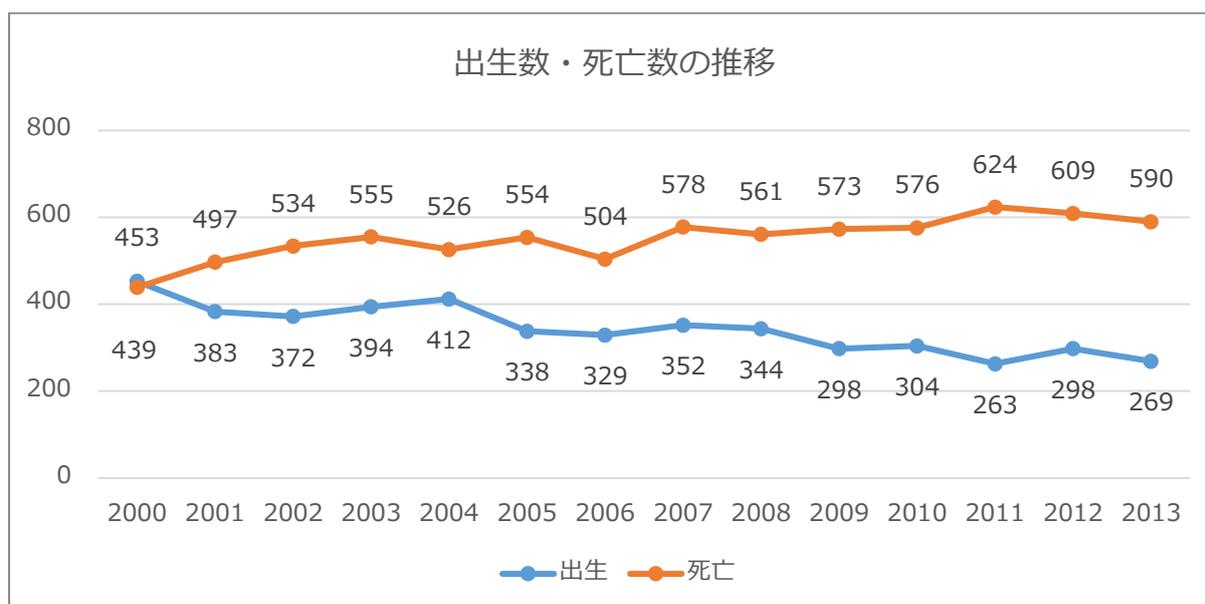
※常住人口調査（基準日 2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日）より作成

○自然動態

■出生数・死亡数の推移

出生数は年々減少しており、2013 年の 269 人は 2000 年対比で 38.7%減少しています。一方、死亡数は増加傾向にありましたが、近年は横ばいとなっています。

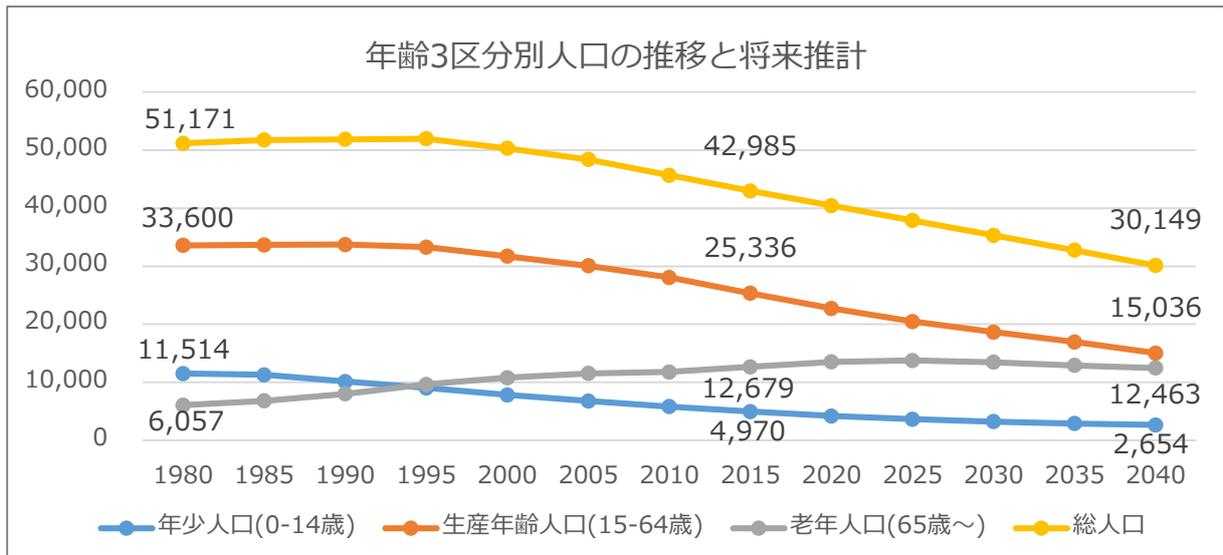
直近 5 か年の出生数と死亡数の差は平均で約 300 人となり、自然減が続いている状況です。



※常住人口調査による

○ 年齢3区分別人口の推移と推計

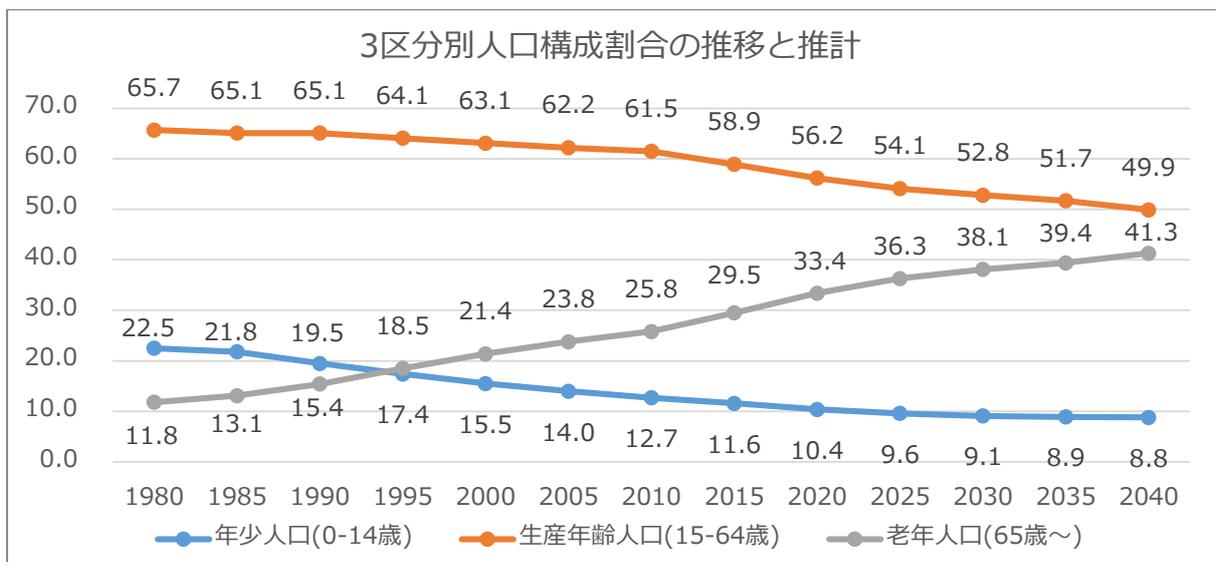
年少人口（0-14歳）、生産年齢人口（15-64歳）、老年人口（65歳以上）の人口推移は、年少人口が1980年以降、生産年齢人口が1990年以降減少し続けています。老年人口はこれまで増加し続けてしてきましたが、2025年以降は減少に転じるとされています。



※2010年までは国勢調査人口、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値を記載

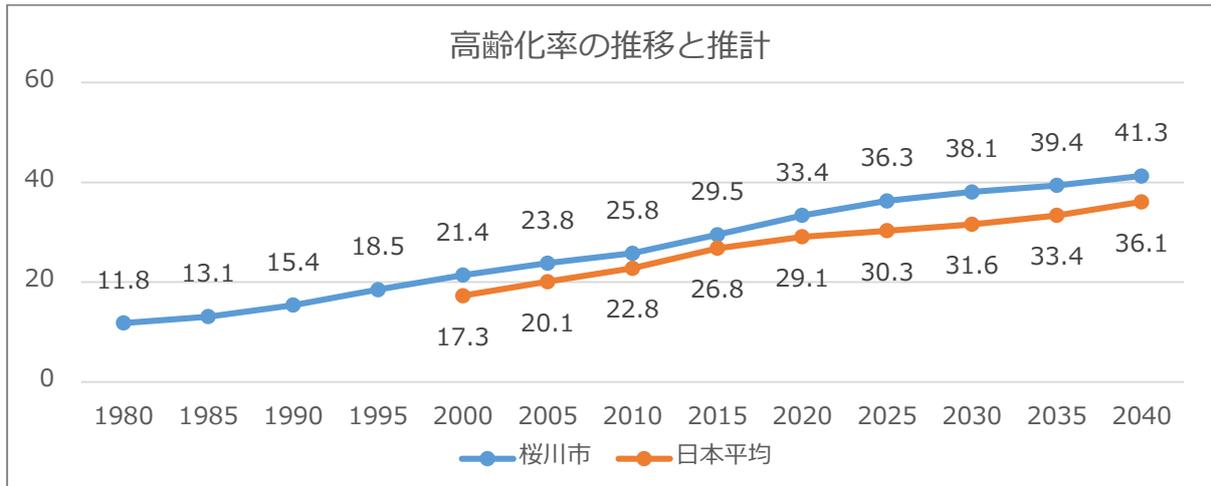
○ 年齢3区分別の人口構成割合の推移と推計

2040年には、年少人口の割合が1割以下となり、老年人口の割合が4割を超えると推計されています。



※2010年までは国勢調査人口、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値を記載

○高齢化率の推移と推計

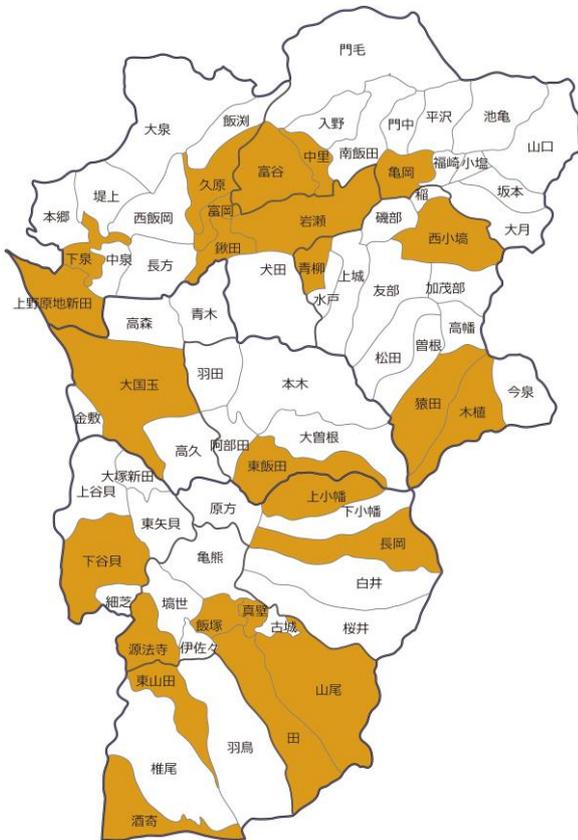


※2010年までは国勢調査人口、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値より作成

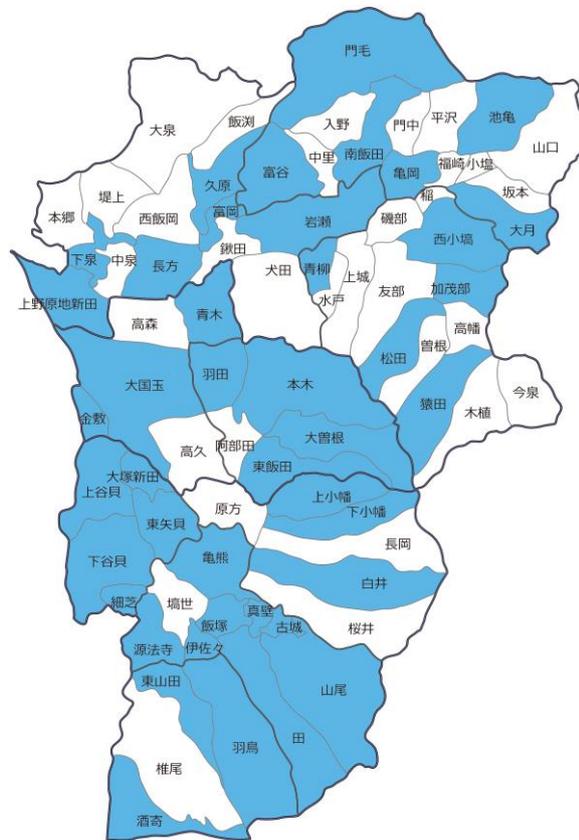
○大字ごとの総人口及び3区別の人口推計

大字ごとの2040年までの人口推計を行った結果、高齢化率が45%を超える大字が25/75、年少人口が現在の半数以下になる大字が43/75という結果になりました。

【2040年に高齢化率が45%を超える大字（黄土色）】



【2040年に年少人口が現在の半数以下になる大字（青色）】



3.人口の将来展望

桜川市の人口減少の要因は、20代30代の若年層の転出超過による社会減と出生数の減少による自然減にあると考えられます。

このため、転出を抑制し転入者の増加を促すと共に「出生数」の増加に積極的に取り組むことが必要です。

転出者を減らし、転入者を増やすためには、20～30歳代の移住・定住を重点的に進めるため、まちのらしさ・魅力に合致した続けられるしごとを創るとともに、結婚・出産・子育て支援を強化することで、出生数の増加を目指します。

こうした施策を組織横断的に取り組むことにより、2035年ごろには生産年齢人口が増加傾向に転じ、それに伴い年少人口も増えることで、人口約33,000人が維持できるまちづくりを目指します。

○長期人口ビジョン

2040年の目標人口：33,000人

